

## 10. センターの広場

### ～ A PLACE IN THE SUN ～ 　　いつか もうすぐ

最近、週末になるたびに、朝6時に起きて車を走らせるという生活が続いている。このような生活を始めて、もうすぐ3週間が経とうというところだろうか。だいたい慣れてはきた。

今朝もまた、6時にセットしておいた目覚しの耳障りな電子音を止め、頭を振って眠気を吹き飛ばす。「今日はあるだろうか」そんな不安にかられながらも、とにかく出かける準備をする。寒いと思ったら、窓の外には小雪がちらついていた。最悪だ。

昨日のうちに買っておいた缶コーヒーを一口飲み、エンジンをかける。まだ1年半しか乗っていない愛車だが、すでに30000kmにメーターが近付こうとしている。「来月給料が入ったら、エンジンオイルを交換しなくては。」などと思いながら、エアコンとコンポのスイッチを入れ、フロントガラスの氷が溶けるのを待つ。コンポからは、浜田省吾の「A Place in the Sun」が流れていた。

7時過ぎには目的の場所に着き、自分のいつもの指定席へと座る。雪が降っていたせいであろう、幸いな事に自分以外の人影は見当たらない。

今度は暖かいコーヒーをすすりながら、読みかけの小説を開く。今読んでいるのは、綾辻行人の「黒猫館の殺人」という推理小説で、これがなかなかおもしろい。ふと目を本から上げると、ガラスの向う側に、一旦やんだかにみえた雪が吹雪いていた。「積もらないといいのだが...」と少し心配になりしばらく窓の外を見つめたあと、再び本に目を戻した。

1時間ほど経った頃だろうか。小さな男の子の手を引いた家族連れや、友達同士であろう小学生のグループの姿がちらほらと見え始めた。全員ワクワクしたような、それでいてどこかに不安を抱いてるような目をしている。不安の原因はその場にいる全員が知っているもので、そこにはある種の連体感みたいなものが生まれていた。

9時を少し過ぎた頃だろうか。いつもの「彼」が現れた。そこに居合わせた人は、波を打ったように静まりかえった。私は「彼」の手元に注目した。が、「彼」の手には何も握られてはおらず、その事は私にとって、これから「彼」が話す内容について最悪なものになるであろう事を物語っていた。

「彼」は、あえて感情を表に出さぬように、そして言葉を選びながら重い口を開く。それは私が予想していた言葉であったのだったが、私の耳には彼の言葉はもはや聞こえなかった。いや、聞きたくなかったというのが正しい見解であろう。

やがて集まった人々は重い足取りでそれぞれの家路へと向かい、私は私の帰る場所へと向かった。外はすでに雪はやんでおり、やわらかな日差しさえもこぼれている。しかし空の上の雲は厚く、まるで私の心を表したかのように灰色の様相を呈していた。私はつぶやく。

「たまごっち..... 今日も駄目だったか....」

なんのことはない。私は「たまごっち」を探して朝早くから並んでいたのである。

**T.Y**

努力の甲斐あって、何と2月20日に無事手に入れる事ができました!うれし〜!!

## 「ようこそFMV」

最近朝の目覚めが良い。朝が弱い私にとってありがたい春がやってきたようだ。春というと毎年新鮮さを感じていたが、今年は就職活動の準備をしなければならないという焦りを感じさせられる。就職先が決まるとたくさんの夢が現実へと変わるのだろうが、全く先が見えず、不安さえ感じている今日この頃である。

今年1月にはセンターのシステムも大きく変わった。私の目の前に新たにFMVがやってきた。その利用者である私が今思う事。

ネットスケープを見る。IDが必要ないので便利。ホームページはすぐに開く。ブックマークから開く。毎日のチェック場所を開く。いつもと変わりなく開く。今日も開く。毎日のチェック場所を開く。いつもより時間がかかる。アドレスも次のページへと変更された。星が流れている。画面の色はグレー。まだ流れている。星が流れている。じわじわと現われている。画像が増えている。だから時間もかかる。とても待ち遠しい。すでに〇〇分も待った。まだ読み込み完了しない。待ちくたびれた。画像を諦めようか。右上には中止ボタン。押そうか押すまいか。

しかし画像が欲しい。上には再読み込みボタン。もう一度読み直し。

\*全てのページが距離や容量に然程関係なく、短時間で読み込めれば、もっとスムーズに、要領よく見る事ができるのに。

検索のページを開く。有るだろうページを検索。有りそうで無いページ。結構ある。

\*この場合はショック(--;;

〇〇社のページが存在するのであれば、△△社のページが存在してもよさそうなお。。。

ネットスケープでページを開く。開くまで待つ。

Cannot Connect. File Not found.

\*この場合も同じくショック(--;;

このページには出会わなかったほうが。。。

学研辞書。表記が大きくて見やすい。国語辞書に頼ってみる。

すぐに表示される。意味をチェック。浅い表示。

\*せっかくの辞書。もう少し内容が濃ければもっと活用できるのに。

以上、私が今思う事です。

失礼致しました。

〇 著